



2014年7月1日掲載

親子高崎紀行／Max編

下の息子はもうすぐ3歳。嫁さんは仕事、上の息子はじいじの家へお泊まりで、2人きりのお留守番となる。

せっかくなので、下の息子を日帰りで新幹線に乗せることにした。ただ、問題は行き先である。

上の息子連れて行った「[親子小田原紀行](#)」(2009年7月掲載)の逆行程も考えたが、下の息子は2階建て新幹線「Max」がお気に入り。そこで、高崎へ行くことにした。

しかし、高崎には何があるのか、いまいよくわからない。出発直前に調べてみたら「パスタの街」ということが判明した。

そこで、高崎駅東口にあるパスタ屋で昼食を食べに行くことに決定！ 帰りはあえて八高線周りにすることにしたのである。

10時前に自宅を出発して、池袋で特急券を購入。お目当ては東京11時16分発「Maxとき316号」だが、指定席を取らず自由席にした。

しかし、ここで発車時間に間に合わない懸念が……。山手線で田端へ向かい、そこから京浜東北線の快速に乗り換え、何とか間に合ったのである。



ところが、まだ懸念があった。「Maxとき316号」は8両編成で、自由席は1～3号車の3両分あるものの、2階建てで収容能力があるとはいえ窓際を確保できない可能性があるのだ。

入線前に並べなかったこと、写真撮影をしていたことでその懸念は的中した。通路側しか空いていなかったのである。

11時16分、定刻に出発。下の息子は「はじめてのしんかんせん」にご機嫌のようだ。

上野、大宮と停車し、2歳児の集中力はせいぜい30分が限界。それでも、どうにかだましだましおとなしくさせる。

東京出発から50分がたった12時06分、高崎に到着した。ホームで乗っていた新幹線を見送り、改札を出る。

以後は[こちら](#)へと続く。

[\[トップページ\]](#)



2014年7月12日掲載

親子高崎紀行／高崎編

今月は「親子高崎紀行」と題してお送りしているが、今回はその2回目。1回目は[こちら](#)をご覧ください。

高崎駅に着き、お目当てのパスタ屋がある東口へ。下の息子をベビーカーに乗せ、東口駅前から続く通りを進む。

10分ほどで、パスタ屋に到着。しかし、昼時とあって先客が2組いたのだ。

待っている間、下の息子のズボンに謎の膨らみが……。ポケットの中に、洗濯ばさみ2個が入っていたのだ。

彼は、その後洗濯ばさみをおもちゃとして活用。2つつけて「れんけちゅ」と言って遊んでいたのである。

先客2組でも、10分も待てば店内に通された。そして、ちゃんと子供用のいすの用意があるのがうれしい。

待っている間にメニューを見ていたが、パスタは生麺と乾麺の選択ができる。しかも、子供用のパスタもあり、そちらは生麺のみとなっていた。

私は明太クリームの大盛りを生麺で、下の息子はお子様パスタを選ぶ。お子様パスタにはワンドリンクがつくということで、アップルジュースをチョイスした。

料理が出てくる間、下の息子はカウンターに並べられた車のおもちゃに食いつく。トレーの上に雑多に並べられているので、いろいろ手にとって遊んでいた。

そして、いよいよパスタがやってきたのである。生麺のモチモチとした食感が心地よく、あっという間に平らげてしまった。

一方の下の息子は、2歳児にしては量が多いかと思ったが、ほぼ完食。麺はわずか3～4本、しかも端切れのような状態のを残しただけだった。

お会計を済ませ、サービス券をもらう。そこには、高崎駅ビルの中に支店があると書かれていたのだ。

でも、訪れたのは本店。本店ならではのものもあるはずである。

再び高崎駅まで戻り、駅ビルの中でおみやげを調達する。おみやげを選んでいる間、満腹とベビーカーの揺れのおかげで、下の息子はお昼寝タイムになった。

子供たちにはぐんまちゃんのカステラ焼き、我が家用と、上の息子を預かってもらっているじいじ用にはうどんを購入。群馬は本州で最も小麦の生産量が多いため、うどんやパスタの文化が浸透しているのだという。

[\[トップページ\]](#)

今回、帰りには八高線を経由することにした。その模様は[こちら](#)からどうぞ。



2014年7月27日掲載

親子高崎紀行／八高線編

下の息子と2人だけの「親子高崎紀行」も、今回が最終回。[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれからどうぞ。

高崎駅でおみやげを調達し、八高線に乗る計画をする。しかし、八高線は1時間10分ほどに1本しかない。

乗車予定の八高線は、14時37分発高麗川（こまがわ）行き。まだ30分ほど時間があるので、下の息子のおむつを交換する。

おむつの交換を終え、八高線ホームへ。2番線と4番線の間には設けられた切欠の3番線が、八高線専用のホームとなる。

そうこうしているうち、3番線に八高線の気動車が到着。キハ110の2両編成で、ワンマン運転である。



14時37分に高崎を出発すると、2駅先の北藤岡の手前まで高崎線の線路を走行。その間、左右にJR高崎車両センターや上信電鉄高崎車両区、倉賀野の貨物駅が相次いで見え、下の息子も興奮気味だった。

ワンマン運転時のキハ110は、運転士のいない運転台は半室化しており、車掌側は普通に立ち入り可能な構造となっている。車掌側のいすを広げると、下の息子が「自分専用」と言わんばかりで座っていた。

ただ、この空間は冷房が効かず、客室の方が涼しいのである。なので、私はときどき客室で涼む。

でも、半室運転台だからこそ見れる風景がある。後ろに流れるレール、そして景色が旅情を誘う。



高崎出発からおよそ1時間半ほどで、終点高麗川に到着。ここから八高線は電化区間となり、川越線からの直通に乗り換える。

高麗川から1駅、東飯能で下車。ここで西武池袋線に乗るのだが、直近の電車は4両編成のためハイカーでごった返している。

14分待てば、8両編成で池袋へ直通する急行が来る。そこで、14分待って急行に乗ることにした。

16時37分発の急行池袋行きが到着。案の定、空いていたのである。

窓を見ると、戸袋窓に虫がいた。秩父で乗り込んだはいが、ここままだ池袋まで運ばれてしまうのだろうか？

そんな余計なことを心配しつつ、今回の旅は終了。雨の予報も出ていたが、結果的に高麗川付近で通り雨程度だったのがせめてもの救いである。

我々が帰宅した直後に、上の息子も到着。送ってくれたじいじとばあばに、下の息子が今日1日のことを説明していたのである。

[\[トップページ\]](#)